

---

# 番外編 愛しい人

美湫 穂羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

番外編 愛しい人

### 【Nコード】

N6666H

### 【作者名】

美溪 穠羅

### 【あらすじ】

愛しい人の番外編です。あれから10年後再び委員会が集まります！！

## 1話

あれから、10年たった。

ヒロは、30。

私は、26だ。

彰と修司は中学3年になり愛美は中学2年だ。

3人とも記憶が残っていて、3人とも、私達のことを呼び捨てだと可笑しいので、さん付けで呼ぶようになった。

顔もあの頃のままだ。

3人とも成績優秀。

当たり前だ。

高校生と中学生だったのだから。

私達の母校に入り生徒会に入った。

あの頃が懐かしい。

私は、掃除やらで忙しい。

ヒロは、相変わらず整備士を。

子供達も今になりや、立派な親になった。

猫が3倍になり、さすがにいっぱい食べる。

押し入れには、キャットフードとお菓子と缶詰や首輪なのが沢山収

納されており押し入れは猫専用になった。

小屋も狭いためヒロが改造してくれて、2階となった。

2階と言っても広いが。

あれから、変わったことは何もない。毎月同じ値段のお金が振り込まれるのも変わってない。だから、全員にケータイとお小遣いを渡してある。

少なめに。売春行為をしないかどうか心配だ。私もしていたがとっくの昔に縁を切った。もう、ああゆう事はしてほしくないからだ。

1番自分が分かっている。するたびに、傷つくだけだと。そのせいあって、3人ともお金が足りない時は、必要な分だけ渡すが、変わ

りに家事をしてもらっている。助かってはいるが、心配だった。自分の子供よりかは、友達として心配だった。ヒロも同意見だが、見守ってやるうっと言っていた。私も、そう思っていた矢先だった。

「明さん、大変だ！愛美が、売春してるって！」

いきなり帰って来て一言目が売春？修司は何を言ってるんだ？

「・・・？えー！！」

一瞬何があったか分からなかった。だって、愛美だぞ？

「本当なの？」

「ああ、また前みたいな事をしたって後輩が言ってだぞ！」

「彰は？」

「愛美を尾行中」

「いつの話？」

「今日の朝」

「嘘だよ。だって、前みたいなさ．．」

前みたいな事とは、つまりあれだ。教室に隠しカメラを設置して、原因をつくった相手を追い詰めるあれだ。

「そのまさかなんだよ！放課後、愛美のクラスを彰と探したら隠しカメラがあつたんだよ！」

「先生達は？」

「愛美が喰っちゃって、口止めされてた」

「校長も？」

「ああ、気づかなくてゴメン」

「修司が、謝ることじゃないだろ？」

「うん」

「校長って、あの頃の？」

「ああ、まだぴんぴんしてるぞ」

「私らで校長室乗り込もうか？」

「明さんは、卒業生だから行ってもいいだろうけど、乗り込んだら全員ビツクリすると思うよ？歴代で、あんな事をしたのは俺らだけなんだから。今でも受け継がれてんの知らないの？10年前の委員会が再び集まったら学校が潰れるって言う噂まで広がってるの知らないだろ？」

そうだ。あの頃の委員会は、教師や校長よりも地位が高く恐れられていた。でも、自由で楽しい為誰も委員会を憎んではいなかったが、教育委員会に事情をチクると潰れる。だから、誰もチクろうなんて言わなかったし、親にもあまり話さなかった。

「でも、私は歴代トップで学校卒業したからいいんじゃないの？」

「委員会の方がでかいから、駄目」

「じゃあ、制服で。顔なんか童顔だからなりすまして、行くのは？」

「まあ、確かにあの頃のまんまだもんな。制服が入るならいいよ」

「じゃ、張り切って着替えよぉ」

私は、クローゼットから制服を取りだし早速着替えた。難無く制服は入り、修司に見せた。

「やっぱり可愛いな、あの頃のまま」

「でしょ、ついでだからヒロも着替えさそうかな」

「ヒロさんも、母校だけど無理があるんじゃない？」

「じゃ、彰と修司と私だけでレッツゴー」

彰と学校で待ち合わせをした。

「修司、明さんに言ったか……その格好なんだよ!？」

「制服に決まってるじゃん」

「制服着てるのは、分かるがどうすんだよ!」

「校長に会う」

「生徒もいんだぞ?しかも、噂知ってるのか?皆顔知ってるんだぞ?」

「大丈夫だつて」

私は、大丈夫だと思っていたが視線が痛い。何故?皆が見てるから。こそこそとあの委員会がある……って言ってるし、なんで?って驚いてる奴もいる。

「っしやー、元委員会が集まったぞー」

大声で叫んでしまった。



「明さん、声でかい」

「さん付けは、いらん。行くぞ」

言葉遣いが男らしくなってしまった。中学校の時から変わってないな、自分。

私達は、建物に入った。相変わらず綺麗だった。教室も変わってないし。

「皆の視線痛いな」

「しょうがねーだろ？今までバレてなかったんだから」

「写真と少しだけ身長が違っからな」

「どうして、バレなかったのだろ？」

「名字が違っからだよ」

「そっか」

校長室が見えた。

「失礼します」

入ると校長がいた。ビツクリしていた。

「何だね？君達は？」

「覚えてくれてないんだ、これを見れば分かる？」

当時の委員会だけが付けられる十字架のピアス。私達は、ピアスをしている耳を見せた。校長が反応した。

「何故君達がいるんだ！？もう、死んだはずでは！？」

「おしかったな、生まれ変わったんだよ」

「どつやって！？」

「神様がしてくれたんだよ、明の子供として生きてたんだよ。よくも、俺達を殺したな」

えっ？

「明には、言っただけだったな。校長が俺達を殺したんだ」

「えっ！？あれは、彰のオヤジじゃなかったの！？」

「分かんねーから来たんだろ？」

「私は、愛美の事を片しに」

「まあまあ、落ち着いて」

「校長、愛美はあの頃の愛美だ。あいつも生まれ変わったんだ。それを、またお前が汚した。分かってんのか？ああ？」

校長は、何も言わない。

「明日の8時、全校生を体育館に集める、分かったか？」

コクリ と頷くだけだった。そして、教室を後にした。

## 2話

夜。

私達は、私服に着替え待っていた。ヒロには、説明をし終わったばかりだった。

「明帆の制服姿見たかったなあ」

「明日ね」

ガチャ

ドアから愛美が帰ってきた。シーンとした空気になる。

「皆どうしたの？」

「ちょっと話があるから、着替えてこい」

「分かった」

不思議な顔で自室に行った。5分もしたら帰ってきた。

「なに？」

「売春したのか？」

「彰には、関係ないでしょ！」

「大有りなんだよ！2度としないうって誓ったよな」

「しょうがないじゃん、寄ってくるんだから」

「でも、明日からは寄ってこないぞ」

「何で？」

「お前明日からあの格好で学校行けば意味が分かるよ」

「あの格好って十字架のピアス？」

「ああ、行ったら意味が分かるよ。俺らと明さんも明日行くから」

「明さんも!？」

「ああ」

「なんで？」

「明日あの格好で行けば意味が分かるから!」

そう。十字架のピアスはあの頃の委員会をさす。あの頃の委員会だけが付けていた十字架のピアス。中1なりたての愛美は噂は知らないが、中2から上は噂になっていているらしい。十字架のピアスはあの頃の委員会の人だと。だから、写真関係なくピアスを見れば一目瞭然だ。

「分かったな」

「うん」

静かにリビングを後にした。

「修司、道具の準備とテープよろしく」

「ああ、明日は久しぶりに暴れられるな」

「程々にね」

「はい」

「ヒロさんも行く？明日暇だろ？」

「そうだな、俺は委員会関係ないが今日からメンバーに入れてくれるなら」

「大歓迎！歳の割には、制服似合わねーからホストの格好で」

「元ホストだぞ？」

「分かってるから」

「ピースちよーだい」

「ちょっと待って、余りがあったから」

棚を捜すと、見つけた。

「じゃあ、はい」

「ありがとうー」

「明日の7時に学校行って準備な。明さん達のチャリはないからヒロさんのバイクで」

「はいはい」

「じゃ、おやすみ」

「おやすみ」

1日が終わった。



「ムロ」

「うん？」

「おやすみのチューは？」

チュッ

「おやすみ」

### 3話

次の日の朝。

久しぶりに忙しい朝を迎えた。

「行くよあ〜」

「愛美は？」

「寝てる」

「学校来たら驚いてくれるかな・・・？」

「驚くけど、あのシーンどうするっ？」

「修司が抜いてくれたみたい」

「あれは、残酷すぎるよな」

「うん」

あーだこーだ言いながらも学校に着いた。視線が痛すぎる。

体育館に着くと、上映会の準備をした。一応下見をしたがひど過ぎる。

「明さん、校長殺すなよ」

「これは、愛美悪くないし売春じゃなくて良かった」

「売春じゃなくても、酷いよ」

見た時吐き気がした。

もうそろそろ時間だから、生徒達が準備されていた椅子に座っている。にぎやかだな。マイクを通じて私達の声が体育館に響く。

「おはよう、俺達は10年前の委員会のメンバーです。俺は、彰です。」

「俺は、修司です。そして、妹愛美と母の明も10年前のメンバーです。何故10年前の俺達がここにいるか説明します」

修司は、今までの事を全て話した。

「……つと言つ訳です。関係ないですが、俺と愛美は校長に殺されました。」

生徒達は、驚いている。愛美がステージ裏にきた。

「どゆつこと？」

「どゆつこと」

「明さん、疲れたから交代」

「あいよ これから、映像を流します。吐き気がした方は外に出ても構いません。後、事実なので目を背けないで下さい。」

「修司、準備は？」

「いつでもいいよ」

「じゃあ、準備が出来たので初めます。楽しんで下さい」

修司がスイッチを押す。スクリーンに現れたのは愛美と校長だった。

「ねえ、成績上げてあげるからしよつよ？」

「嫌です」

「断ったら、退学」

「意味分かんない」

「そっか、なら力づくで」

校長が愛美を縛り、暴れないようにした。口にも布を入れてあった。そして、服を脱がした。そこで映像が止まり、終わった場面だった。

「このことを言われなくなかったら時々相手しろよ？」

そして、度重なる行動が全て流れた。先生までもが、愛美に手を出していた。

映像が終わり、生徒が校長を睨んでいた。女性の先生が愛美を抱きしめ保健室へ行った。愛美も泣き崩れていた。

「この映像は事実です。そして、愛美はどれほど悔しくて悲しいか貴方達は分かりますか？運悪く教室にいただけなのに・・・。もしも、愛美がいなかったら校長の相手は貴方達だったかもしれない。」

今の貴方達は多分心の中で笑っているでしょう？でも、もしも愛美じゃなく貴方達だとしたらどうしますか？校長はバイなので男ともしません。

父親としては、この学校を許せません。

なので、今日から校長と愛美を苦しめた先生達には辞めてもらいます。そして、新しい校長を生徒さん達で話し合ってください。現在の生徒会の皆様は生徒会室へ集まって下さい。結果は、放課後体育館で。その時はマイクじゃなく普通に話しましょう。俺達は、暇なので皆様も暇なら一緒に話し合しましょう。生徒会室でお待ちしております。」

ヒロが言い終わると皆が帰って行った。片付けをしていると教師達と校長がやってきた。

「どうゆうことですか！？監視してたのですか！？」

「あれは、愛美からのSOSです、先生方は悪いと言つ自覚はないのですか？」

「それは・・・」

「今日限りで辞めてもらいます。辞めないのなら教育委員会に言います。今すぐ荷物を持って出て行って下さい。明日から夏休みなのでから教師は必要ない。女性の先生方で十分だ」

先生達は、さっさと荷物を持って帰って行った。

## 4話

結局学校は、変わりの校長と新米教師を集めることに決定した。

私は、最近体の調子が悪い。目眩がしたり苦しくなったりした。

病院へ行くと癌だと告知された。1ヶ月もたないと。薬だけもらい、家に帰った。

「ただいま」

「おかえり」

「どうしたの？」

「ちょっと、病院に」

「具合が悪いの？」

「癌だって……。1ヶ月もたないって……」



「えっ……」

「嘘だよね」

「嘘じゃない……」

皆が悲しそうな顔をしている。

「だからさ、残りの時間楽しも？」

「楽しみたくないよ……！だって、明日死ぬかもしれないんだよ？」

「ゴメン……。寝るね」

そう言うと自室へと向かった。確かにいつ死ぬか分からない。念の為遺書を書いておこう……

ヒロと愛美と修司と彰へ

読んでいる頃は死んでいるでしょう・・・

私は、貴方達に出会えて良かったです。

ヒロと離れたくないです。

愛美達とも・・・

まだ、死にたくありません。

死ぬのが怖いです。

ヒロの事愛してます。

愛美は、幸せになって。愛せる人を見つけてください。どんな人でも暖かく見守っています。

彰は、将来の夢を見つけれよ。素敵な女性を見つけてね。

修司は、遊びすぎに注意してね。女性関係も。彰達と同様幸せになれよ。

猫達をよろしくね。

昏倒してゐよ・・・

今までありがとう・・・

さようなら・・・

書き終え、眠りにつく。今日は、よく眠れそうだ・・・

8月3日PM11時・・・

星野明帆(34)死去

變じてゐる・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6666h/>

---

番外編 愛しい人

2010年10月9日22時46分発行